

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 祝町 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均と同程度であるが、「読むこと」に関して若干全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」に関して、若干全国平均を下回っている。
	よくてきた問題	文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題。目的に応じて、文章と図表などを結び付け、必要な情報を読み取る問題。
	努力が必要な問題	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を若干上回っている。「数と計算」の領域では、全国平均を若干下回っているが、「測定」「変化と関係」の領域に関して、全国平均を上回っていた。また、記述問題を中心とした思考・判断・表現力を図る問題において、全国平均を上回っている。
	よくてきた問題	異分母の分数の加法の計算。併せて変わる二つの数量関係に着目し、必要な数量を見いだす問題。また知りた数量の大きさを求める問題。
	努力が必要な問題	箱アから、積目間の関係を読み取る問題。数直線上に示された数を分数で書く問題。方眼上の五つの図形の中から台形を選ぶ問題。
理科	全体的な傾向や特徴など	全区分・領域で全国平均を上回っている。特に、電気・磁石・電磁石に関する「エネルギー」を柱とする領域、発芽の条件や受粉に関する「生命」を柱とする領域に関して全国平均を上回っている。また、記述問題を中心とした思考・判断・表現力を図る問題において、全国平均を上回っている。
	よくてきた問題	水のみかみ方の違いについて結果を基に結論を導いた理由を表現する問題。乾電池のつなぎ方を選択する問題。種子の発芽の結果から差異点や共通点を基に新たな問題を見出し表現する問題。
	努力が必要な問題	水がとけてきた水が海に流れていくことの根拠を選択する問題。水の温度による体積の変化を根拠に海面水位の上昇した理由を予想する問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
○「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に関する肯定的な回答は、全国平均を上回っている。「毎日、同じ時間に起きる」に関する肯定的な回答は、全国平均を若干下回ったが、家庭での基本的な生活習慣が身に付いている。
○「自分にはよいところがある」（自己有用感）に関する肯定的な回答は、全国平均を若干下回った。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」に関する肯定的な回答は、全国平均を上回っており、児童へ適切な声掛け・評価、温かな励ましがなされている。今後も支持的な学習意欲を維持しつつ、児童が自己肯定感を高められるような取組を推進していく必要がある。
○「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強しているか」についての肯定的な回答は、全国平均と同程度であるが、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間PC・タブレット等のICT機器を勉強のために使っているか」「分らないことや、くわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫しているか」についての肯定的な回答は、全国平均を下回った。
○「読書が好き」に関する肯定的な回答は、全国平均を上回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○家庭学習の啓発を行うとともに、分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、ICT機器を活用して、課題解決を図れる環境づくりにつとめる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭での基本的な生活習慣は身に付きつつあるが、「睡眠」については課題があるため、養護教諭等と連携をとりながら、保健体育の学習の充実を図る。また、生活習慣について、家庭にも啓発を行う。